PF施設報告
PF director’s report

船守展正・KEK 物構研放射光

2020 年度は、COVID-19 から大きな影響を受けた年でした。第 I 期の運転が PF の 2 週間のみとなったため、PF および PF-AR の第 III 期の運転を増やし、PF シンポジウム当日も休止せずに、年度末まで継続する予定です。施設の COVID-19 対応としては、感染拡大防止の観点から策定した「安全ガイドライン」を利用者の皆さまに順守して頂くとともに、PF プロジェクト経費や補正予算等により、遠隔測定や自動測定など、各ビームラインに適した機能強化の取り組みを進めてきました。

2021 年度に向けての明るいニュースとして、PF プロジェクト経費の約 10%の回復と機構内予算配分における入射器や機構共通設備への負担の減額を報告したいと思います。この数年は、最低限の運転時間に必要な光熱水費を確保することが最優先でしたが、設備機器の保守・更新・高度化や人員体制の強化も必要です。それらとのバランスを考慮しながら、ユーザーランの時間を増やす方向で検討しています。負のスパイラルを脱して、上昇流を確実にとらえることが重要ですので、積極的な予算編成を行いたいと考えています。

今回の PF シンポジウムのプログラムには、現在進行中のプロジェクトの他、短期および長期の将来計画を紹介するセッションを設けています。短期の将来計画は、2020 年度に着手した、もしくは 2021 年度に着手するプロジェクトで構成されています。上記の予算状況の改善を受け、PF の高度化を推進して参ります。最後に総合討論の時間も設けています。皆さまからの忌憚のないご意見をお願いします。

放射光共同利用実験審査委員会（PF-PAC）は、共同利用実験の課題審査を行うのに加え、「放射光を利用する研究計画に関する重要事項を審議する」ことが任務となっています。2019 年度および 2020 年度の 2 年間、PF-PAC において、学術施設としての機能を強化するための制度改正を進めて参りました。当日、本報告において、改めて紹介したいと思います。